

## 自然が創り出した芸術

越辺川支流の三滝川に落ちる上下二段の男滝、女滝と、下流にある天狗滝の三つを総称して、黒山三滝といわれています。

この場所は、室町時代に山岳宗教修験道の拠点として開かれ、広く信仰を集めてきました。

春の新緑、夏の清涼、秋の紅葉、冬の氷瀑と、四季ごとに変わる美しい表情は、訪れる人を飽きさせることがありません。

毎年7月の第1日曜日には、黒山三滝で滝開きの行事が行われます。式典では、山伏や巫女・天狗の装束に身を包んだ人びとによる滝清めや滝打たれの儀などが厳かに執り行われます。越生に夏の訪れを告げる風物詩です。



黒山三滝

## 関東一の巨樹

上谷の山入集落を訪れると、突如として眼前に現れるこの巨樹は、地元の人々から「上谷の大クス」と呼ばれています。

その威容は、幹周り15m、高さ27m、樹齢は1000年以上にもなります。枝ぶりも見事で、間近で見るとその大きさと迫りに圧倒されてしまいます。

昭和63年度に環境省が行った「緑の国勢調査」では、全国16位、関東第1位の巨木に認定されました。

暖かい西日本に多く自生するクスノキが、関東の山間部でこのような大木に生長するのは、極めてまれな例であると言われています。

近年ではパワースポットとしても有名で、多くの人々がこの場所を訪れています。



上谷の大クス

## 600年以上の歴史を持つ名刹

草創は平安時代と伝えられ、永享2(1430)年に、室町幕府の第6代将軍足利義教が関東管領上杉持朝に命じ、無極慧撤を招いて復興したのが開基とされます。文明4(1472)年に太田道真・道灌父子が兵火にかかり荒廃していた伽藍を再建し、以後曹洞宗の大寺院に発展しました。

慶長17(1612)年、江戸幕府による「曹洞宗法度」の制定で、下総総寧寺(千葉県市川市)、下野大中正(栃木県栃木市)とともに「関三刹(関三箇寺)」に任せられ、大本山永平寺の住職も三箇寺から交代で選任されるなど、全国約15,000の曹洞宗寺院を管理する役目を務めました。

境内の歴代住職墓地には、太田道真・道灌父子の墓もあります。



龍穩寺



山吹の里歴史公園

鷹狩りの途中、にわか雨に遭った若き日の太田道灌は、蓑を借りに貧しい民家を訪ねました。すると、出てきた少女は何も言わずに一枝の山吹を差し出しました。少女の謎が解けなかった道灌は、「蓑がない」悲しさを「七重八重 花は咲けども 山吹の 実の一つだに 無きぞかなしき」という古歌に託した少女の想いをのちに知りました。自分を恥じた道灌は歌道を目指し、文武両道の名将になったという逸話の故知と伝えられているのが、山吹の里歴史公園です。

この公園は、山吹の名所として知られており、4月から5月にかけて、風にゆれる黄金色の花が、園内の水車小屋とあいまって風流な趣を醸し出します。

# 越生町 名所めぐり



越生梅林

## 関東屈指の梅林

越生町津久根・小杉・堂山を中心とする一帯には、約2万本の梅の木が植えられています。開花時期には、さながら雲海のように梅の花が咲き誇り、ほのかな芳香が辺りを包み込みます。

越生といえば梅林というほど越生梅林の知名度は高く、関東三大梅林の一つに数えられています。

越生の梅は、南北朝時代に、九州の太宰府から小杉天満宮(現・梅園神社)を分祀した際、菅原道真にちなんで植えられたことが起源とされています。

毎年梅の花の見頃となる2月中旬から3月下旬まで「梅まつり」が開催されます。開催期間中の土・日曜日には、お囃子や獅子舞など数多くのイベントが催されます。毎年ひと足早く春の訪れを感じようと、多くの観梅客で賑わいます。

## 戦士たちが静かに眠る場所

大観山の頂に建てられた戦没者慰霊塔で、第二次世界大戦による本邦の戦死者の遺骨が納められ、世界各国の英霊が祀られています。

昭和24年、越生町選出の埼玉県議会議員・長谷部秀邦氏を先達に、拳町態勢で霊廟建設運動が起こりました。

昭和26年3月には衆参両院で、提出した懇願が採択され、翌27年に着工、30年に竣工しました。

毎年5月には、恒久平和を願って「世界無名戦士之墓慰霊大祭並びに越生町戦没者追悼式」が行われます。

外秩父山地を背景に関東平野を臨む大観山は、その名にふさわしい眺望地で、晴れた日には正面に東京スカイツリーが望め、都心の高層ビル群、筑波山までも見渡すことができます。



世界無名戦士之墓



鈴木金兵衛の札所巡拝碑

## 現代によみがえった「写し霊場」

鈴木金兵衛は、天明元(1781)年に越生郷黒岩村で生まれた江戸日本橋の商人で、古帳類買入所、今日でいう古紙回収業を営んでいました。家業にちなんで古帳庵(ふるちょうあん・こちょうあん)の号で俳句をたしなみ、諸国を行脚して各地に句碑をのこしました。

故郷の五大尊を深く崇敬していた金兵衛は、五大尊境内に四国八十八ヶ所霊場と、西国・坂東・秩父百観音霊場の「写し霊場」を造ることを計画し、石碑(巡拝碑)の造立に着手しましたが、完成に至らず、五大尊境内には、計104基の巡拝碑が順不同の状態で見えています。

そこで、平成27年度、不足する84基を新たに造り、既存の碑と合わせて順に巡ることができるように、札所番と寺院名を刻んだ標柱を横に設置しました。現在、4つの札所、188基の巡拝碑を巡るコースが整備されています。

## 全国初のハイキングのまち宣言

関東平野と外秩父山地の接点に位置する越生町。町のほぼ中央を越辺川が流れ、流域には里山の風景が残り、町土の約7割を山地が占めています。こうした山地に一步踏み込めば、四方八方に山道が張り巡らされています。

こうした環境と地理的な特長を活かして、越生町は平成28年4月29日に全国初となる「ハイキングのまち」を宣言しました。

街中から山の中まで、数多くのハイキングコースが設定されており、四季折々の花や山からの眺望スポット、町内に点在する歴史文化遺産、観光名所を巡りながら自分に合ったスタイルでハイキングを楽しむことができます。



ハイキングコース